

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者の方には、それぞれ担当職員が存在するが、個々の力量や、やる気の違いにより、職員間で温度差が出てしまい、仕事に対してもモチベーションが上がらない。また、考え方のズレが生じやすいため、同じ方向にすすめるような取り組みが必要である。	職員一人一人が、ケアの基本的な考え方を習得することで、入居者本位で考えられるようにする。そのためには、「ケアのものさし」を活用して話をする。	日常の会話や、会議の中で「ケアのものさし」の文言を読み、理解する場を設けていき、意識付けをする。理屈では理解が難しい状況もあるため、入居者の状態を会議などで話し合う際に、実践での振り返りを通して、考え方を学んでいく。	3ヶ月
2	40	入居者の生活環境を整えたいという思いがあっても、気持ちにゆとりがもてず、忙しく業務を行っている。そのため、変化が少なく、入居者や家族からも余暇活動を求められている。しかし、見方を変えることで、同じ時間の中にもケアに繋がる部分はあるため、生活の中でできることを見直していく。	入居されている方が、生活しているという環境に近づけられるようにする。そのために、入居者一人一人の状態をアセスメントしていき、日々の生活の中で行えることをみつけて、支援していく。	入居者の生命過程、生活過程を把握した上で、どのようなケアが良いかを担当職員が中心となって考え取り組み、実践、振り返り、課題などを毎月の会議等で話し合っていく。	3ヶ月
3	4・49	家族との交流の場は、年4回担当職員から家族に送る手紙と、夏祭りなどしかない。また、面会にきてくださった家族へ職員からは挨拶程度しかできず、入居者のケアについて話し合う場面は少ない。関係を築いて、家族の声も聞いていき、入居されている方の生活の質の向上に繋げる必要がある。	入居者と家族、入居者と職員、家族と職員が交流する場を増やし、時間や各々の思いの共有を図る。まずは、年間行事として、夏祭りと家族交流会の他に定例の催しを確立させる。	夏は夏祭り、春は家族交流会があるため、秋もしくは冬に、入居者と家族、職員が一同に顔を合わせて、お食事会もしくはお茶会ができるような催しを計画する。職員だけでなく、家族の方にも協力してもらい取り組んでいく。	6～8ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月